

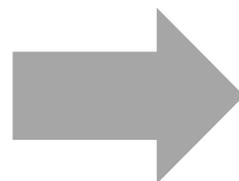
高経年化対策 – 機器や配管が干渉し、点検できないところの確認方法 –



ワーキングの詳細
はこちらから

論点No.167

発電所の中は、多数の機器や配管があり、近づいて点検することが出来ない箇所がたくさんあるが、そのような箇所の劣化の進行具合はどのように判断しているのか。



第17回ワーキング
(2020.10.21) で議論

ワーキングチーム検証結果

狭くて近づけない部分については、専用の試験装置により点検しているほか、周辺の同じ劣化環境にある別の個所の点検を行い、劣化の状況を判断していることなどを確認。

ワーキングチーム検証結果 (抜粋)

○狭隘部、高所等でアクセス困難な部位の評価と点検対応

- 原子炉格納容器内に設置されている配管等の干渉物等により、直接の目視試験が困難な狭隘部等については、その周辺の同雰囲気中にある塗膜等の状況を確認し、健全性を評価
- 40年時点の劣化状況を確認する特別点検では、仮設足場を各所に設置して高所等の点検部位に近づける状況を確認し、目視試験を実施



仮設足場設置



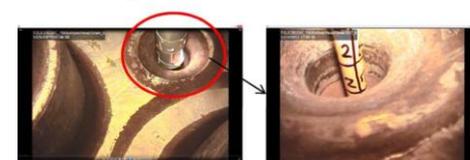
格納容器内への仮設足場設置例

○原子炉圧力容器 (RPV) 内の点検対応

- 原子炉圧力容器内部の点検においては、点検対象部位や形状に合わせた試験装置を適用したことにより、点検が不可能な部位はなかった。



原子炉圧力容器内の目視試験例
(制御棒駆動装置 (CRD) 目視試験)



原子炉圧力容器内の目視試験例
(ドレンノズル目視試験)